

邇摩高校PTA広報

Yurinoki

高百合樹



第 31 号

令和元年10月7日
島根県立邇摩高等学校PTA

ユリノキ

本校が明治36年、大森に創設された際に植栽された由緒ある樹木である。創立100周年の記念樹としても採用された。

PTA会長あいさつ



坂根 勉

昨年度に引き続き本年度もPTA会長を務めさせていただきます。おります坂根と申します。保護者の皆様方には、平素よりPTA活動にご理解ご協力頂きありがとうございます。

先般行われた夏の甲子園の島根県予選を今年も応援に行かせていただきました。私は、この試合を応援しながらいろいろと気づかせていただきました。昨年は熱中症対策等のため応援は野球部関係者と吹奏楽部の生徒たちという少人数でしたが、今年には多くの生徒が応援に参加して、試合結果は残念な結果ではありましたが、邇摩高校の生徒・教職員・保護者が一体となって応援することができました。このように子どもたちが頑張っている試合を応援することは保護者と教職員からなるPTAの活動として考えても、連帯感がしっかりと持っていることが実感できよいことだと思います。また、最近では褒めて子どもたちを伸ばすということが、教育の主流となつてきていますが、私だけかもしれないですが、なかなか我が子を褒めるということができていません。しかし、この試合を応援する保護者の皆さんは、お子さんが打てなくても、ちよつとしたエラーをしても、子どもたちに今のは気にせず次、頑張ればよいというようなポジティブな応援の言葉を次から次にシャワーのようにか

ぶせて応援されているので、選手もこのミスは次の成功の基になるという気持ちに切り替えることができ、生き生きと楽しく試合ができたと思います。このことが実践できている邇摩高校の保護者の皆さんは素晴らしいと感じました。

また、先日 第69回全国高等学校PTA連合会大会京都大会に参加させていただきました。来年はこの島根県での開催となりますので、会員の皆様にご協力及びご参加をお願いすることになりますが、よろしく願います。また、今大会から分科会には企業の方にも参加して頂くのもでき、私は「EYE」の分科会に参加させて頂きました。こちらでは、情報リテラシーやプログラミング、災害時対応についての講義演習でした。まず、高校生のスマホ所持率が94%と聞き、スマホは高校生の必需品となつていると感じさせられ、当然ほとんどの生徒がSNSを使っていると思われれます。私たちの普段のコミュニケーションは言葉だけではなく、相手の表情やしぐさなどから多くの情報を収集することにより、相手の人が話したいことを理解ができていますが、SNSでは文字や絵文字だけでその不足情報が多くなるので、そのことを理解しての利用が相手の話したいことの正しい理解には大切だということを経験により、より実感できました。子ども達にもこのことを理解して利用してもらいたいものです。

最後になりますが、皆様ご存じのよう邇摩高校は5系列を有する総合学科から成り立っているので、生徒たちが自分の

将来を見据えて専攻を選び学ぶことができ、子ども達のやる気を奮い立たせてくれていると思います。この素晴らしい邇摩高校の更なる発展の為、保護者の皆様のご意見・ご協力をいただきPTA活動を進めて行きたいと思っております。宜しく願います。

現代の高校生の人間関係について考える

(高P連全国大会分科会に参加して)



教頭 黒崎 千春

現代の高校生は、親や教師だけでなく友達にさえ本音を言わなくなつた。子ども

もたちの大半は、付き合う相手や場面ごとにキャラ変し、周りに合わせて自分を演じている。また、濃い関係より薄い関係を好み「重たい」人間関係を嫌う傾向にある。その結果、ここ数年でネット上の友達リアル友達よりリアルだと答える高校生が多くなつたそうだ。同じクラスでもラインに入っている者は友達でそうでない者は友達ではない、苦手、嫌いだという。高校生の人間関係は小グループ化していて、自分と同じ価値観を持つ者もしくは友人関係を築かず、他のグループにほとんど関心が向かない。上手に人間関係を築くためには、価値観が合

わないろいろなタイプのグループとつきあえる能力を持っているかどうか重要となる。

ご家庭で友人関係について子どもさんから相談があった場合は、「そんな子とはつきあわないよう」と言ってしまう多様性を否定するのではなく、「そういう考え方もあっていいと思うよ」とアドバイスしてみてもいいでしょうか。

第69回全国高等学校PTA連合会大会

「京都大会」参加報告

総務部長 奥野和浩

8月22日から23日、ロームシアター京都及び京都市勧業館「みやこめっせ」にて行われた全国大会に、来年の島根県開催の視察を兼ね、坂根PTA会長・黒崎教頭とともに3名で臨みました。

これまで単位PTAの活動を報告・紹介してきた分科会形式が島根大会から大きく変わる（無くなる）こともあり、京都大会は島根大会プレ方式で実施されました。各分科会はテーマに基づき基調講演とパネルディスカッションまたはワークショップという形式で行われ、コーディネーターやファシリテーターにより全国高P連会員の意見がどんどん引き出されます。今春高校を卒業した社会人1年生6名が登壇した第4分科会では僅か半年での成長した姿に一同が驚いたようです。



私が参加した第2分科会は”子どもたちを育む環境づくり”をテーマとしワールドカフェ方式「京・みやこカフェ」として行われました。6人1グループ3展開で全国の高P連会員との意見交換をしながらゴールを目指しました。保護者の価値観の押しつけを子どもにしてはいないか？例えばスマートフォン。子どもはSNSによる情報収集をしているのに、ダメと決めつけてはいないだろうか？危険性は話し、その先は子どもに任

せてみる勇氣・度胸も保護者には必要だ！自由にも何でもさせて、そこから学ぶことの方が将来役に立つのではないか。など、意外な意見が多く聞きました。

日本電産(株)CEOの永守重信氏による記念講演は衝撃的でした。高校によるブランド主義(いい会社、いい大学)と偏差値教育が日本をダメにしている。暗記テクニックを教えてどうするのか？それよりも人間力(あいさつ、言葉遣い、礼儀、躰)を教えない。子どもには「何をやりたいか？」からスタートして最後までやらせなさい。と熱弁されました。また、英語会話力(世界共通言語)が最も武器になる。だからそこに力を注ぎなさい。先生の座右の銘は「情熱・熱意・執念・信じる」。パワフルな講演でした。

閉会式で全高P連 牧田会長から、島根県 大屋会長に手渡された全高P連旗。1年後にやってくるという実感とともに身の引き締まる思いでした。



校長あいさつ

「感謝」

校長 吉川 靖



平素より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り厚く

御礼申し上げます。9月4日に実施した体育祭では、一日順延したにもかかわらず多くの保護者の皆さまにご来校いただき、ご声援いただきましたこと感謝申し上げます。8月下旬からの長雨で、開催を心配しましたが、一日順延することで全ての競技と、生徒が準備してきた全てのことを披露することができました。

当日私は出張でしたので、開会式のあいさつが終わってすぐに出張先に向かいました。ですので、残念ながら初めての体育祭と一緒に過ごすことはできませんでした。しかし、後に教員等から聞いたところ、生徒同士が各分団の枠を超えて一生懸命応援していたことや、勝ちにこだわって競技や演技をしていたこと、一体感があり3年生が頑張っていたこと等々いい話を聞きました。

「頑張っている仲間をしっかりと応援しよう」と年度初めより伝えてきて、高校野球夏の大会で生徒会を中心に行った本校の応援に対し、外部から賞賛の声を

いただいたように、生徒たちはみんなで『チーム邇摩高』として、学校の教育活動、部活動、ボランティア活動など様々な場面で活躍してくれている姿に感謝したいと思います。

◆入学式の様子



宣誓
湯谷 真生さん

保護者の声

PTA評議員 住田善一

この春から、長男が邇摩高校でお世話になることになりました。今年度は、次男が中学校に、四男が小学校にも入学するという俊になりました。あつという間に進学していく子供たちが、心配でもあり楽しみでもあります。

邇摩高校は私の母校でもあり、校舎や入学式で聞いた校歌を懐かしく思いました。小中高と同じ学校を歩む長男。楽しい高校生活を送ってもらいたいです。

高校は、今後の進路を決める大切な場でもありません。様々な経験を積み、自分の考えを持って行動できる社会人となってもらいたいです。

教職員の声

「邇摩高学習スタイル」

教務部長 小原 陽介

六月初旬に行った邇摩高での家庭学習時間調査によると、全体の一日平均時間は53.3分、全体の四割の生徒が平均三十分未満でした。なかには平均二時間以上の生徒もいましたが、全体的には決して良い結果とはいえません。

この原因として、目標が明確に持てていない、何に取り組みばいいのかわからないといったことが考えられます。今後私たち教師が行う手立ては、生徒にしつ

かりと目標を持たせ、目標達成のために何をすべきか具体的に提示していくこと、適切な課題を与えていくことだと考えています。

七月最後の登校日、全校集会の教務部からの連絡のなかで、この結果を生徒に話しました。そこで、「邇摩高学習スタイル」と銘打って、次の二点を提案しました。

・三点固定Ⅱ「起床」「就寝」「学習開始」の時間をそろえること

・毎日夜八時から机に向かうこと

人口減少、超高齢社会、通信技術の進化、その普及……。短期間で激変していく社会を生きていくためには、常に学ぼうとする姿勢や多様な課題を解決する力が必要になります。高校で培った「学び」と向き合う習慣はきつと将来の財産になるはずで

「同窓会にて」

1年学年主任 勝木 仁美

八月に、高校卒業以来はじめてとなる同窓会がありました。普段、接点は全くありませんが、顔を合わせて話をすると長い時間があつという間に立ち返ってくるから不思議です。

「もし、過去に戻れるなら、いつに帰りたい？」と問われれば、迷うことなく「高校一年の時」と答えます。決して順風満帆な日々だったわけではありません。勉強は大変でしたし、嫌なこともありましたが、でも文句を言っても始まりません。やることをやらなければ自分

苦しむだけです。同級生と励まし合いながら前向きになろうとしていました。振り返ってみると、大変だったからこそ輝いていたように思えます。全員で校歌を合唱しながら、自分の糧となった恩師や友との出合いを思い返した一日でした。

一年生は、後期から系列に分かれた授業が始まります。これからの日々を、前向きな気持ちで過ごしてほしいと思います。

「自由とは何ですか？」

2年学年主任 石崎敏彦

「自由」という言葉があります。皆さん知っている言葉ですね。さて、どのような意味があるのでしょうか？好きなことを何でもしてよい。自分の気分で行動してもよい。などいろいろな意味を持っていると思います。国語辞典では、「他からの束縛や支配などを受けない状態」とあります。なんといい言葉ですね。しかし、皆さんよく考えてください。ほとんどの人が「自由」という言葉の意味を理解していないのではないのでしょうか。束縛や支配をうけない状態ということ、自分自身でしっかりと責任を持ち行動することが求められてきます。さて、2年生はこれから進路に向けて考えていく時期になっていきます。進路選択をするときに自分が選択したこと責任を持たないといけません。楽しそうとか楽だからとかという考えだけで選択するのではなく、自分の意思

をしつかりと持ち、保護者の方ときちんと話し合い決定することが大切です。「自由」に選択するということは責任と自覚を求められる行動が必要だということをしつかりと考え、残り少ない2年生の時期を生活してください。

「あいさつをしつかり」

3年学年主任 高下克己

今年度3年学年主任を拝命しました高下と申します。3年生の目標といえばやはり「進路実現」や「よりよい社会人になるための準備」が真っ先に挙げられます。この目標の実現のための具体的な行動指針として3つのことを実行できるように掲げました。

① 凡事徹底

② 時を守り、場を清め、礼を正す

③ 自律と自立

私が特に意識していることがあいさつです。これは「礼を正す」ことにもつながります。「立ち止まって綺麗に、心をこめてあいさつすること」を3年生にお願いして、自らも時間の許す限り実行しています。このことによりお互いに落ち着いた気持ちで学校生活が送られていると感じます。今後とも手本を教員や3年生が示すことによって、規律もある明るい邇摩高校にしていきたいと思

体育祭分団長コメント

「それぞれの思い」

紫軍 三年三組 鎌田 航多

体育祭準備期間中は天候に恵まれず、苦勞しました。広いスペースでのダンス練習ができない中で工夫しなければいけなかったのですが何もできず、団長として情けないと感じました。ですが、その中でも一、二年生がついて来てくれて、三年生の仲間も協力してくれて感謝してもきれません。僕たちの日頃の行いが良かったお陰で体育祭当日は、うんざりするほどの晴天に恵まれ、最高の思い出になりました。体育祭はあつという間に過ぎ去っていきました。紫軍テーマ「紫電一閃」のように一瞬の出来事でしたが、僕にとつては一生輝き続ける虹色の思い出でした。この体育祭で邇摩高校は、また一つ飛躍し、みんなの笑顔が大輪の向日葵のように咲き誇る体育祭になりました。



「みんながいたから」

青軍 三年二組 和田 輝

こんにちは。青組分団長の和田輝です。当日に応援に来てくださった保護者の皆様、そして教員の皆様ありがとうございました。正直なところ、二組のみんなに輝に分団長をやつてほしい。」と頼まれた時は、自分できるのかとても不安でした。ですが、二組のみんなが 大丈夫？ などと気にかけてくれる自分は、やり抜くことができました。また、一、二年生のみんなも短い期間で頑張ってくれて応援を盛り上げてくれてとても嬉しかったです。応援・衣装・競技で一位をとれ、総合優勝もできた事は、青組みんなの力です。青組のみんながいたから、自分は最後まで頑張ることができました。一、二年生のみんな、三年生に最高の思い出をありがとう！三年生のみんな、文化祭も頑張ろうね！青組で本当に良かったです。青組優勝！最高！



「全力で成し遂げる喜び」

赤軍 三年一組 稗田 陸
こんにちは。赤組分団長の稗田陸で

す。当日は応援に来てくださった保護者や地域の皆様、そして先生方、ありがとうございました。夏休みの終わりから三年生を中心に準備を始め、一、二年生と一緒に練習を始めると、なかなかまとまらず大変なことばかりでした。ですが本番では全員が全ての力を出し切り、良いパフォーマンスができたと思います。普段話さない人とも仲良くなれたり、集団で何かを成し遂げる喜びを全員が味わえた体育祭になったと思います。

分団のみんなにとつて、団長らしいことができたかどうか分かりませんが、大勢を同じ目標に向かわせるために、自分はどういう行動をすればいいのか、短い期間ではありましたが、いろいろなことを考えさせられる良い時間になったと思います。皆さん、ありがとうございました。

